

DENON[®]

RCD-M41

CD RECEIVER

取扱説明書

お読みになったあとは、いつでも見られるところに「安全にお使い
いただくために」・「保証書」とともに大切に保管してください。

目次

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録

目次

使用上のご注意	5
携帯電話使用時のご注意	5
お手入れについて	5
結露(つゆつき)について	5
換気についてのご注意	5
移動させるときのご注意	5
付属品	6
乾電池の入れかた	7
リモコンの使いかた	7
特長	8
各部の名前	9
フロントパネル	9
ディスプレイ	12
リアパネル	13
リモコン	15

接続のしかた

スピーカーを接続する	19
スピーカーケーブルを接続する	19
サブウーハーを接続する	20
スピーカーを接続する	20
アナログ機器を接続する	21
デジタル機器を接続する	21
FM/AM アンテナを接続する	22
電源コードの接続	24

再生のしかた

基本操作	26
電源を入れる	26
電源をスタンバイにする	26
入力ソースを選ぶ	27
音量を調節する	27
一時的に音を消す(ミュート)	27
CDの再生	28
CDの再生	28
好きな順に再生する(プログラム再生)	29
データCDの再生	30
ファイルを再生する	31
FM/AM放送を聴く	32
FM/AM放送を聴く	32
FM放送局を自動的にプリセットする(オートプリセット)	33
FM/AM放送局をマニュアルでプリセットする	34
プリセットした放送局を聴く	35
本体でプリセットチャンネルの選択や周波数の切り替えをおこなうための設定	35

Bluetooth機器の音楽を聴く	36
Bluetooth機器の音楽を聴く	37
2台目以降のBluetooth機器とペアリングする	38
Bluetooth機器から本機に再接続する	39
Bluetooth機能を停止して高音質な再生をおこなう	39
デジタル入力で聴く	40
アナログ入力で聴く	41
便利な機能	42
音質を調節する	43
スリープタイマーを設定する	44
現在の時刻を確認する	44
ディスプレイの明るさを切り替える	45

設定のしかた

メニュー一覧	46
メニューの操作のしかた	47
CLOCK SETUP	48
ALARM SETUP	48
ALARM ON/OFF	49
H/P AMP GAIN	50
SPK OPTIMISE	50
AUTO STANDBY	50
CD AUTO PLAY	51
CLOCK MODE	51

困ったときは

上手な使いかた/こんなときの解決方法	53
故障かな?と思ったら	54
お買い上げ時の設定に戻す	62
保証と修理について	63

付録

データ CD の再生について	65
デジタル入力	66
Bluetooth 機器の再生について	66
ディスクについて	67
ラストファンクションメモリー	69
用語の解説	70
登録商標について	71
主な仕様	72
索引	76

使用上のご注意

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1~2 時間放置してから使用してください。

換気についてのご注意

本機をたばこなどの煙が充満している場所に長時間置くと、光学式ピックアップの表面が汚れ、正しい信号の読み取りができなくなることがあります。

移動させるときのご注意

最初にディスクを取り出して電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

次に、機器間の接続ケーブルを外してからおこなってください。

ステレオ音のエチケット



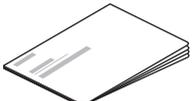
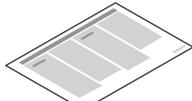
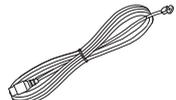
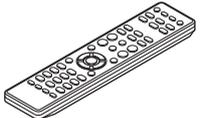
音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

お買い上げいただきありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

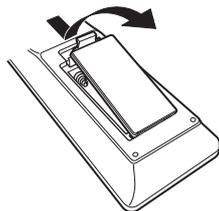
付属品

ご使用になる前にご確認ください。

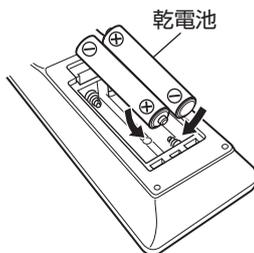
 <p>かんたんスタートガイド</p>	 <p>取扱説明書(本書)</p>	 <p>安全にお使いいただくために</p>	 <p>電波に関するご注意</p>	 <p>保証書</p>
 <p>電源コード 【本機専用】</p>	 <p>FM室内アンテナ</p>	 <p>AMループアンテナ</p>	 <p>リモコン (RC-1214)</p>	 <p>単4形乾電池(2本)</p>

乾電池の入れかた

- 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



- 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



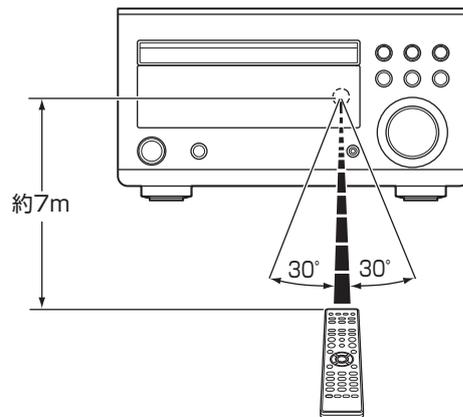
- 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。

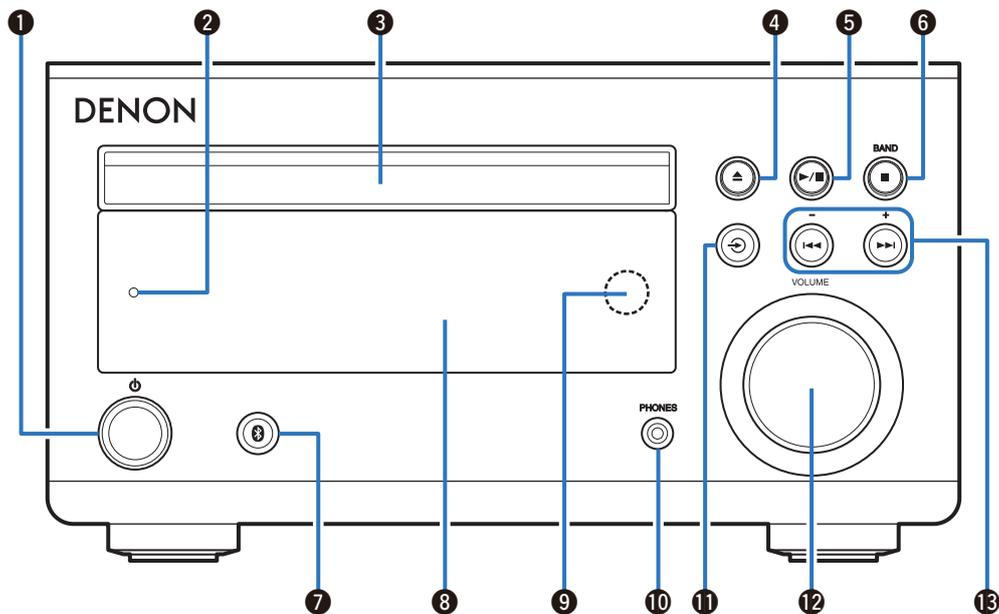


特長

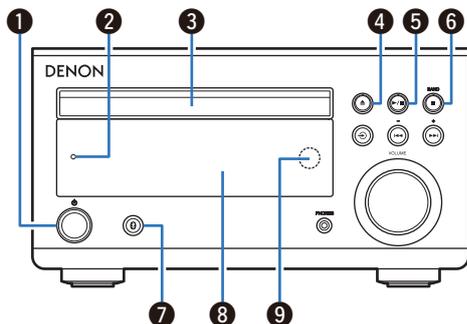
- **高音質を再現する高性能アンプの採用**
30W+30W(6Ω)の高性能パワーアンプ回路を搭載。
- **しっかりとした情感豊かな再生**
電源回路の低インピーダンス化のために、回路構成、基板上のレイアウトを一新。安定した電源をパワーアンプや各回路に供給することで 30W+30W もの大出力を実現しました。
- **純度が高く色付けのない音を再現するシンプル&ストレート回路構成**
デノンの M シリーズは、Hi-Fi コンポーネントと同様に回路のシンプル&ストレート化を徹底。回路構成の複雑化を避け、信号経路を最短化することにより、純度の高い再生音を実現しています。
- **オートスタンバイモード**
約 15 分間本機の操作をおこなわないと、自動的に本機の電源はスタンバイモードに切り替わります。
- **環境にやさしい低待機電力**
スタンバイ時の消費電力は 0.3W と環境に配慮した設計です。
- **リモコン**
本機には、ワイヤレスリモコンが付属しています。ボリュームなど使用頻度の高いボタンを大きくし、押しやすい位置にレイアウトすることにより操作性を高めています。
- **ゲインコントロール機能搭載の高性能ヘッドホンアンプ**
ヘッドホンでも高音質な音楽をお楽しみいただけるように高性能なヘッドホンアンプを搭載しています。また、接続されるヘッドホンの特性に合わせて切り替えられる 3 段階のゲインコントロール機能を備えています。
- **テレビやデジタル機器を接続できる光デジタル音声入力を 2 系統搭載**
テレビやメディアプレーヤーと光デジタルケーブルで接続すると、テレビの音声やさまざまなコンテンツを高音質でお楽しみいただけます。
- **Bluetooth 対応機器とのワイヤレス接続が可能**
([P.39 ページ](#))
お手持ちのスマートフォン、タブレットなどの Bluetooth 対応機器とワイヤレスで接続することで、本機から離れた場所においても、メールやウェブサイトを眺めながら音楽をお楽しみいただけます。また、高音質コーデックの AAC に対応しており、迫力のある音で音楽やゲームをお楽しみいただけます。
- **Bluetooth OFF モードによる高音質再生が可能**
本機の Bluetooth 機能をオフにすることで、音質に影響を与えるノイズ源を抑え、高音質な再生ができます。

各部の名前

フロントパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。



① 電源ボタン(⏻)

本機の電源をオン/オフ(スタンバイ)にします。
([P.26](#) ページ)



- “CLOCK MODE” がオンの場合、時刻表示と通常表示を切り替えます。
([P.51](#) ページ)

② 電源表示

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 電源オン時: 緑色
- 通常のスタンバイ時: 消灯
- Bluetooth スタンバイ時: 赤色([P.39](#) ページ)
- アラームスタンバイ時: オレンジ色([P.48](#) ページ)

③ ディスクトレイ

ディスクを挿入します。
([P.28](#) ページ)

④ ディスクトレイ開閉ボタン(▲)

ディスクトレイを開閉します。

⑤ プレイ/ポーズボタン(▶/⏸)

再生をはじめます。再生中に押すと一時停止します。

⑥ ストップボタン(■)

再生を停止します。

受信バンドボタン(BAND)

チューナー使用時に、FM/AM を切り替えます。

⑦ Bluetooth ボタン(📶)

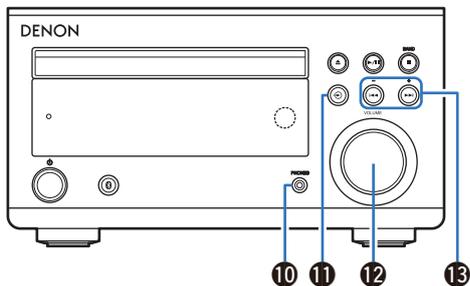
入力ソースを Bluetooth に切り替えます。また、ペアリング操作のときに使用します。
([P.36](#) ページ)

⑧ ディスプレイ

各種情報を表示します。
([P.12](#) ページ)

⑨ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。
([P.7](#) ページ)



10 ヘッドホン端子(PHONES)

ヘッドホンを接続します。
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーから音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

11 入力ソース選択ボタン(⊙)

入力ソースを選択します。(P.27 ページ)

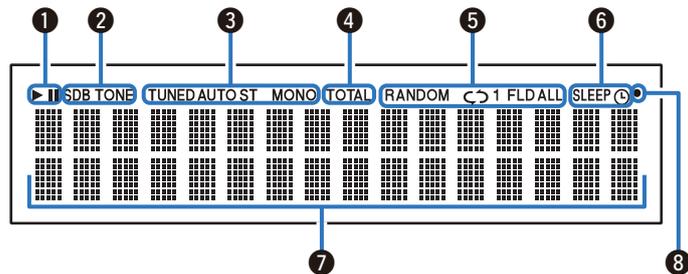
12 音量調節つまみ

音量を調節します。(P.27 ページ)

13 スキップボタン(⏮, ⏭)

曲の先頭にスキップします。
プリセット/選局ボタン(-, +)
FM 放送局および AM 放送局を選択します。(P.32 ページ)

ディスプレイ



① 再生モード表示

- ▶:再生中に点灯します。
- ||:一時停止中に点灯します。

② トーン表示

SDB:SDB(Super Dynamic Bass)機能が“ON”のときに点灯します。

TONE:音質(BASS/TREBLE)を調節すると点灯します。

③ チューナー受信モード表示

入力ソースが TUNER のとき、放送局の受信状態により点灯します。

TUNED:放送局を受信したときに点灯します。

AUTO:入力ソースが“FM AUTO”のときに点灯します。

ST:FM ステレオ放送を受信すると点灯します。

MONO:FM モノラル放送を受信すると点灯します。

④ トータル表示

ディスクに収録されている全ての曲数および総収録時間を表示すると点灯します。

⑤ 再生モード表示

再生モードの設定によって点灯します。

⑥ タイマー動作表示

SLEEP:スリープタイマーがオンのときに点灯します。

⏰:タイマー再生がオンのときに点灯します。

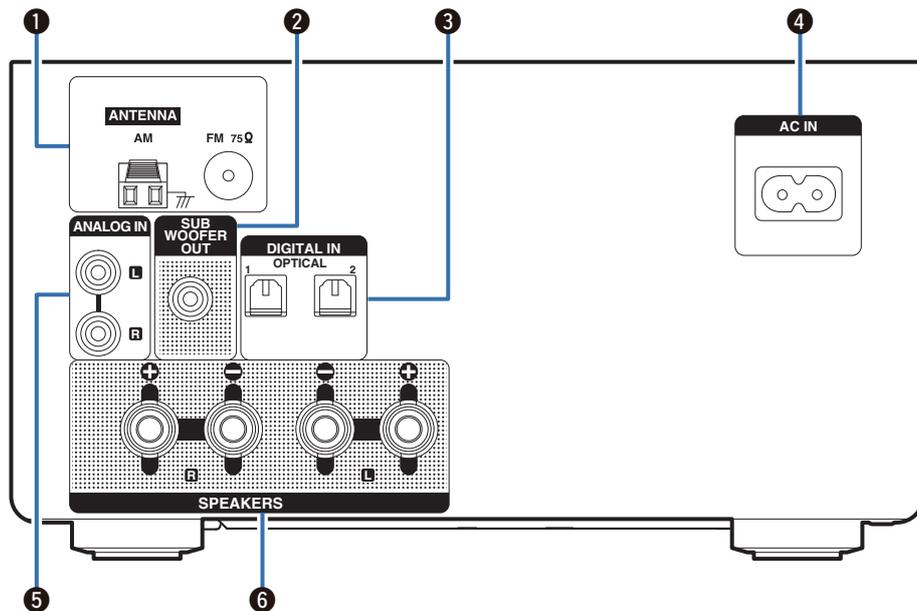
⑦ インフォメーションディスプレイ

再生状態や設定値などを表示します。

⑧ リモコン信号受信表示

リモコンからの信号を受信したときに点灯します。

リアパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。

目次

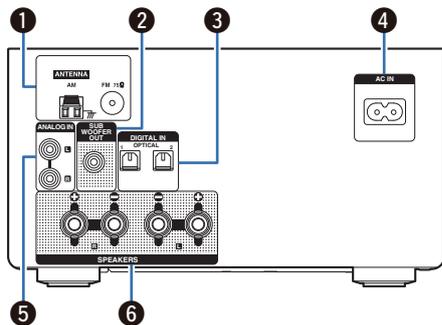
接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録



① アンテナ端子(ANTENNA)

FM アンテナまたは AM ループアンテナを接続します。
([図 22 ページ](#))

② サブウーハー端子(SUBWOOFER OUT)

アンプ内蔵のサブウーハーを接続します。([図 20 ページ](#))

③ デジタル入力端子(DIGITAL IN)

デジタルオーディオ端子付きの機器を接続します。
([図 21 ページ](#))

④ AC インレット(AC IN)

付属の電源コードを接続します。([図 24 ページ](#))

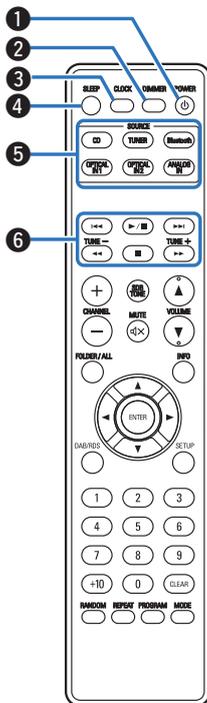
⑤ アナログ入力端子(ANALOG IN)

アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。
([図 21 ページ](#))

⑥ スピーカー端子(SPEAKERS)

スピーカーを接続します。([図 19 ページ](#))

リモコン



① 電源操作ボタン(POWER ㊦)

本機の電源をオン/ オフ(スタンバイ)に切り替えます。
([P.26](#) ページ)

② ディマーボタン(DIMMER)

本機のディスプレイの明るさを調節します。(P.45 ページ)

③ クロックボタン(CLOCK)

現在時刻を表示します。(P.44 ページ)

④ スリープボタン(SLEEP)

スリープタイマーを設定します。(P.44 ページ)

⑤ 入力ソース選択ボタン

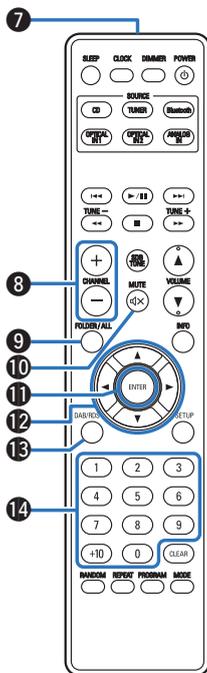
入力ソースを選択します。(P.27 ページ)

⑥ システムボタン

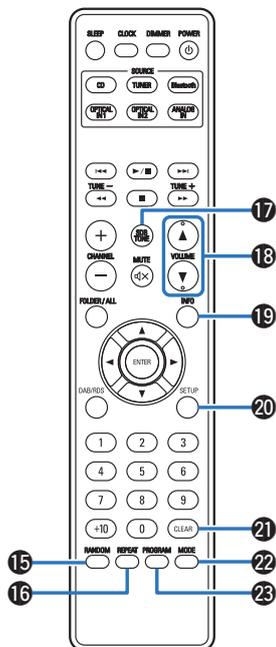
再生に関する操作をします。

選局ボタン(TUNE +, -)

FM 放送局および AM 放送局を選択します。(P.32 ページ)



- ⑦ **リモコン信号送信窓**
リモコンの信号を送信します。(P.7 ページ)
- ⑧ **チャンネルボタン(CHANNEL +, -)**
プリセットした放送局を選択します。(P.32 ページ)
- ⑨ **フォルダ/オールボタン(FOLDER/ALL)**
データ CD の再生範囲を選択します。(P.30 ページ)
- ⑩ **ミュートボタン(MUTE \times)**
消音します。(P.27 ページ)
- ⑪ **エンターボタン(ENTER)**
選択した内容を確定します。
- ⑫ **カーソルボタン($\Delta \nabla \triangleleft \triangleright$)**
項目を選択します。
- ⑬ **DAB/RDS ボタン**
本機ではこのボタンを使用しません。
- ⑭ **数字ボタン(0 ~ 9、+10)**
数値を入力します。



- ⑮ **ランダムボタン(RANDOM)**
ランダム再生をします。
- ⑯ **リピートボタン(REPEAT)**
リピート再生をします。
- ⑰ **SDB/トーンボタン(SDB/TONE)**
音質を調節します。(参照 43 ページ)
- ⑱ **音量調節ボタン(VOLUME ▲▼)**
音量を調節します。(参照 27 ページ)
- ⑲ **インフォメーションボタン(INFO)**
ディスプレイに表示する、再生中の曲情報を切り替えます。
- ⑳ **セットアップボタン(SETUP)**
ディスプレイに設定メニューを表示します。(参照 47 ページ)
- ㉑ **クリアボタン(CLEAR)**
設定を取り消します。
- ㉒ **モードボタン(MODE)**
FM の受信モードを切り替えます。(参照 32 ページ)
- ㉓ **プログラムボタン(PROGRAM)**
プログラム再生をします。(参照 29 ページ)

接続のしかた

■ 目次

スピーカーを接続する	19
アナログ機器を接続する	21
デジタル機器を接続する	21
FM/AM アンテナを接続する	22
電源コードの接続	24

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

■ 接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	

スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。
ここでは例として、代表的な接続方法を説明します。

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。「保護回路」(P.71 ページ)
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- スピーカーはインピーダンスが 6~16Ω のものを使用してください。

スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+、-をよく確認して、同じ極性を接続してください。

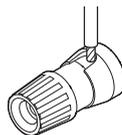
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじる。



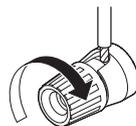
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の穴に差し込む。

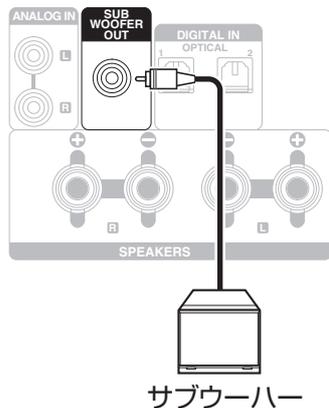


- 4 スピーカー端子を右に回して締める。



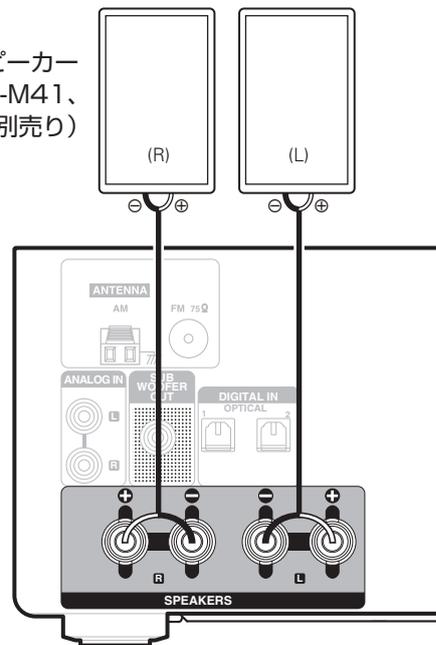
サブウーハーを接続する

サブウーハーケーブルを使用して、サブウーハーと接続します。



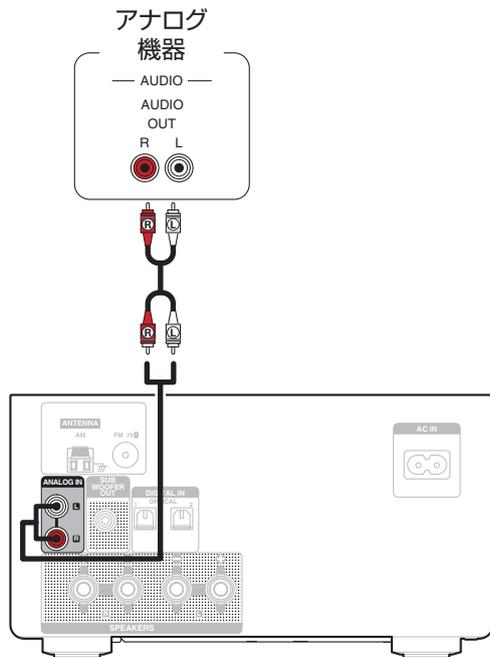
スピーカーを接続する

スピーカー
(SC-M41、
別売り)



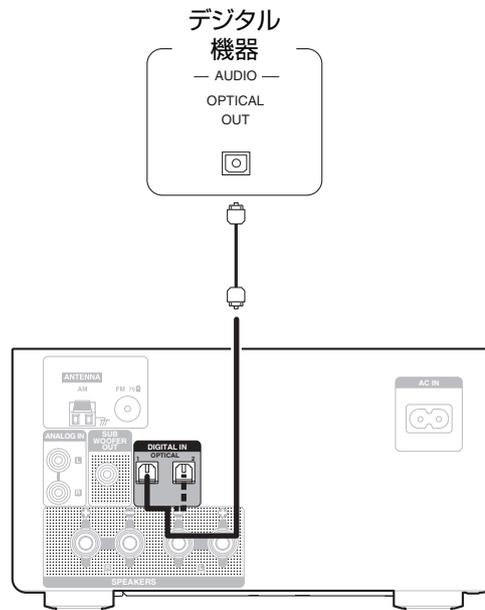
アナログ機器を接続する

アナログ出力端子を持つ機器と接続します。



デジタル機器を接続する

デジタル出力端子を持つ機器と接続します(TV 等)。

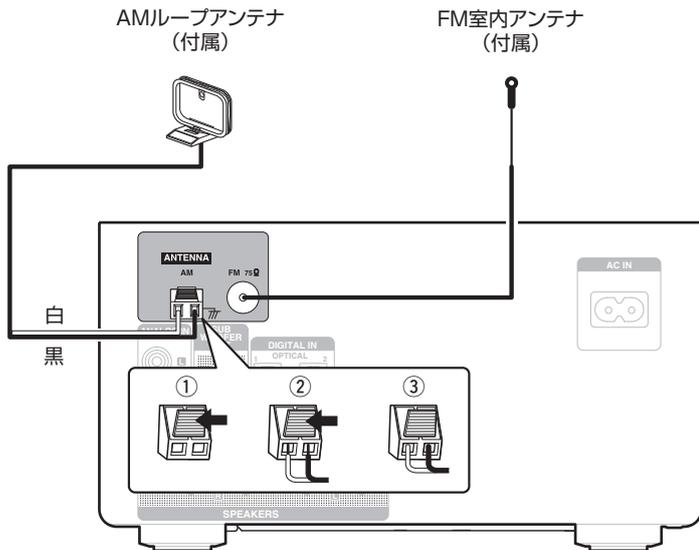


■ 再生できる音声信号の仕様

「デジタル入力」(P.66 ページ)をご覧ください。

FM/AM アンテナを接続する

アンテナを接続したあとに放送を受信し、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。「FM/AM 放送を聴く」(P.32 ページ)



- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

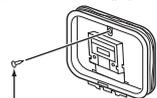
ご注意

- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないか確認してください。

■ AM ループアンテナの使いかた

壁に掛けて使う

組み立てずにそのままお使いください。

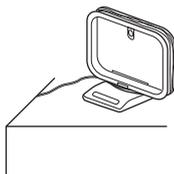


くぎや画びょうなど

置いて使う

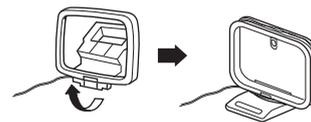
図のように組み立ててお使いください。

組み立てかたは、「AM ループアンテナの組み立てかた」をご覧ください。



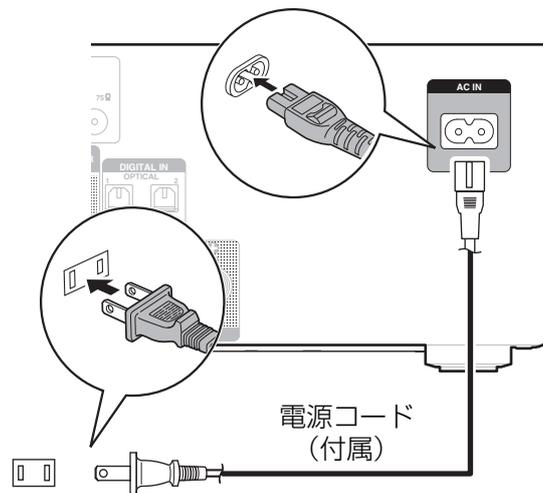
■ AM ループアンテナの組み立てかた

- 1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。
- 2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。



電源コードの接続

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



家庭用の電源コンセントへ
(AC100V、50/60Hz)

再生のしかた

■ 目次

基本操作

電源を入れる	26
電源をスタンバイにする	26
入力ソースを選ぶ	27
音量を調節する	27
一時的に音を消す(ミュートイング)	27

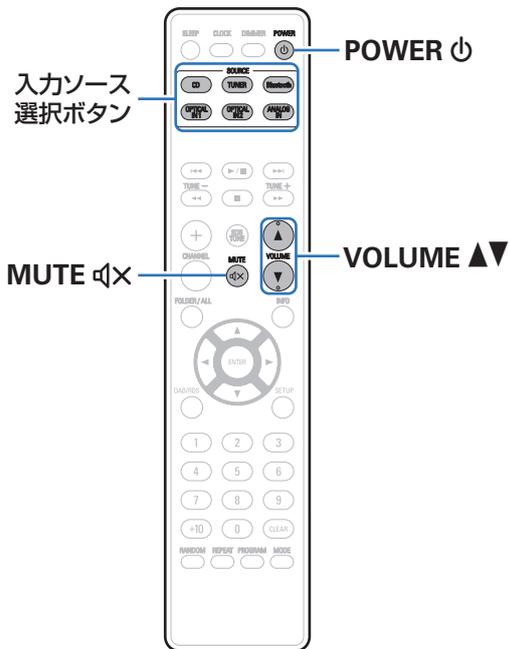
機器を再生する

CD の再生	28
データ CD の再生	30
FM/AM 放送を聴く	32
Bluetooth 機器の音楽を聴く	36
デジタル入力で聴く	40
アナログ入力で聴く	41

その他の機能

便利な機能	42
-------	----

基本操作



電源を入れる

- 1 POWER ㊤ を押して、電源を入れる。
電源表示が緑色に点灯します。



- 本体の ㊤ を押しても、スタンバイ状態から電源を入れることができます。

電源をスタンバイにする

- 1 POWER ㊤ を押す。
スタンバイ状態になります。



- 本体の ㊤ を押しても、スタンバイ状態にすることができます。

ご注意

- 電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

入力ソースを選ぶ

- 1 再生する入力ソース選択ボタンを押す。
入力ソースをダイレクトに選択できます。



- 本体の  を押しても、入力ソースを選択できます。
- 入力ソースが“TUNER”のときにもう一度 TUNER を押すと、FM/AM を切り替えます。

音量を調節する

- 1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。
音量レベルを表示します。



- 本体の VOLUME を回しても、音量を調節できます。

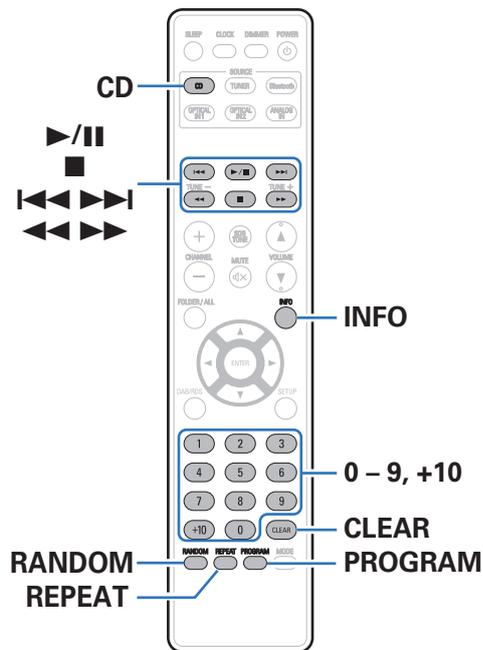
一時的に音を消す(ミュートイング)

- 1 MUTE  を押す。
ディスプレイに“MUTE ON”を表示します。



- ミュートイングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE  を押してください。

CDの再生



CDの再生

- 1 CDを押して、入力ソースを“DISC”に切り替える。
- 2 ディスクトレイにディスクを入れる。(P.67 ページ)
再生をします。
 - 本体の▲を押すと、ディスクトレイが開閉します。



- CDの自動再生をするかしないか設定できます。(P.51 ページ)

ご注意

- ディスクトレイに異物を入れないでください。故障の原因になります。
- 電源を切っているときに、ディスクトレイを手で押し込まないでください。故障の原因になります。

操作ボタン	機能
▶/■	再生/一時停止
■	停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
◀◀▶▶	(長押し) 早戻し/早送り
0~9,+10	ダイレクト選曲
RANDOM	ランダム再生
REPEAT	リピート再生 • 1 曲リピートと全曲リピートを切り替えます。
INFO	経過時間表示の切り替え

好きな順に再生する(プログラム再生)

最大 25 曲までプログラム再生ができます。

1 停止中に PROGRAM を押す。

“PGM” と表示します。

2 0 ~ 9,+10 を押して、曲番を選ぶ。

【例】3 曲目、12 曲目の順にプログラムする場合は、3,+10、2 と押してください。

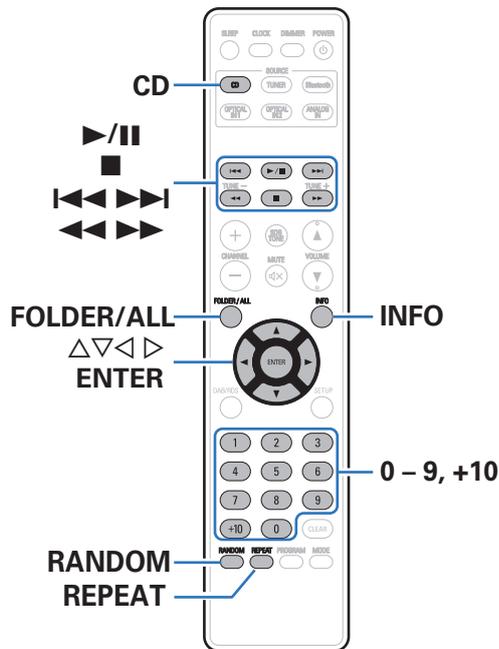
3 ▶/■ を押す。

プログラムした曲順に再生をはじめます。



- ディスクトレイを開けたり、電源を切ったりするとプログラムを解除します。
- 停止中に CLEAR を押すと、プログラムした最後の曲を取り消します。
▶▶ を押すと、取り消したい曲を選択できます。
- 停止中に PROGRAM を押すと、プログラムした曲が取り消されます。
- プログラム再生中に RANDOM を押すと、プログラムした曲をランダムに再生します。
- プログラム再生中に REPEAT を押すと、プログラムした曲順にくり返し再生します。

データCDの再生



- ここでは、CD-R および CD-RW に記録している音楽ファイルの再生のしかたを説明します。
- インターネットのホームページ上には、MP3 形式や WMA (Windows Media® Audio)形式の音楽ファイルをダウンロードできるさまざまな音楽配信サイトがあります。そのサイトからダウンロードした音楽(ファイル)を CD-R または CD-RW に書き込むことにより、本機で再生できます。

“Windows Media”および“Windows”は、米国やその他の国で、米国“Microsoft Corporation”の登録商標または商標です。

- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「再生できるファイルの仕様」をご覧ください。
([p.65 ページ](#))
- MP3
- WMA

ファイルを再生する

- 1 CD を押して、入力ソースを“DISC”に切り替える。
- 2 音楽ファイルを記録してある CD-R/CD-RW をディスクトレイに入れる。(P.67 ページ)

再生をはじめます。

- 本体の ▲ を押すと、ディスクトレイが開閉します。



- CD の自動再生をするかしないか設定できます。(P.51 ページ)

操作ボタン	機能
▶/	再生/一時停止
■	停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
◀◀▶▶	(長押し)早戻し/早送り
△▽	フォルダの選択
<▷	ファイルの選択
0~9、+10	ダイレクト選曲
FOLDER/ALL	再生モードの切り替え • 選択したフォルダ内のすべてのファイルを再生するか、ディスク内のすべての曲を再生するかを切り替えます。
RANDOM	ランダム再生
REPEAT	リピート再生 • 1 曲リピートと全曲リピートを切り替えます。
INFO	ファイル名、タイトル/アーティスト名、タイトル/アルバム名の表示切り替え
ENTER	選択項目の決定

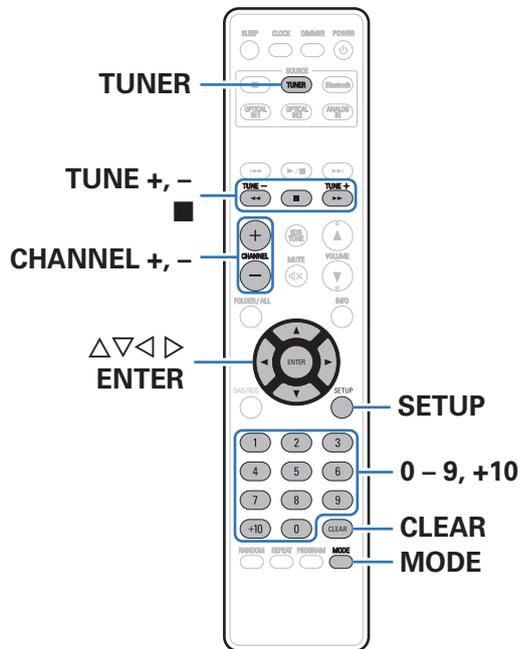


- 本体のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は“(ピリオド)”に置き換えて表示します。

■ 再生できるファイルについて

「データ CD の再生について」(P.65 ページ)をご覧ください。

FM/AM 放送を聴く



アンテナの接続については、「FM/AM アンテナを接続する」(P.22 ページ)をご覧ください。

FM/AM 放送を聴く

1 TUNER を押して、受信バンドを選ぶ。

FM AUTO:	FM 放送を聴くときに選択します。
FM MONO:	電波が弱く、安定したステレオ受信ができないときは、“FM MONO”を選び、モノラル受信にしてください。
AM:	AM 放送を聴くときに選択します。

- “FM AUTO”を選択すると、“AUTO”が点灯します。
- 受信バンドを“FM AUTO”に設定し、ステレオ放送を受信すると“ST”表示が点灯します。
- FM 放送局を受信中に MODE を押して、“FM AUTO”と“FM MONO”を切り替えることもできます。

2 TUNE +または TUNE -を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

受信すると、“TUNED”表示が点灯します。

- “FM AUTO”に設定していると、自動的に受信できる放送局を探します。
- “FM MONO”に設定していると、ボタンを押すごとに 1 ステップずつ周波数を切り替えます。

FM 放送局を自動的にプリセットする (オートプリセット)

本機は最大 40 局の FM 放送局をプリセット登録できます。

- 1 FM 放送局を受信中に **SETUP** を押す。
- 2 **△▽** を押して **“TUNER SETUP”** を選び、**ENTER** を押す。
- 3 **△▽** を押して **“FM AUTO PRESET”** を選び、**ENTER** を押す。
- 4 **“PRESS ENTER”** の点滅表示中に **ENTER** を押す。
放送局を自動的にプリセットします。



- オートチューニングを停止するときは **■** を押してください。
- アンテナの電波が弱い放送局は、オートプリセットができません。このような場合は、マニュアルチューニングで受信してください。
- AM 放送局はオートプリセットできません。

ご注意

- オートプリセットをおこなうと、それまでに登録していた FM プリセットの内容を消去して、新しい FM 放送局が登録されます。

■ プリセットしたチャンネルに放送局名を付ける。

- 1 名前を付けたいプリセットチャンネルを受信する。
- 2 **ENTER** を 2 回押す。
ディスプレイが放送局名入力表示になります。
- 3 放送局名を入力する。
最大 8 文字まで入力できます。

△▽:	文字を選びます。
<▷:	カーソルを左右に移動します。
CLEAR:	選択中の文字を消去します。 (長押し)3 秒以上長押しすると、全ての文字を消去します。

- 入力できる文字
[A ~ Z, 0 ~ 9, ^ ' () * + , - . / =(空白)]

- 4 **ENTER** を押す。
文字の入力を確定します。
 - 他のプリセットチャンネルに名前を付けるときは、再度手順 1~4 をおこなってください。

FM/AM 放送局をマニュアルでプリセットする

本機は最大 40 局の FM/AM 放送局をプリセット登録できます。

- 1 プリセットしたい放送局を受信する。
- 2 ENTER を押す。
未登録プリセットの最小番号表示“P-”が点滅します。
- 3 0 ~ 9、+10 または CHANNEL +、- でプリセットする番号を選び、ENTER を押す。
受信周波数と受信モードをプリセットして、ディスプレイが放送局名入力表示になります。

ご注意

- 登録済みのプリセット番号を選ぶと、“*”を表示します。このプリセット番号にプリセット内容を上書きするときは、ENTER を押してください。

4 放送局名を入力する。

最大 8 文字まで入力できます。

△▽:	文字を選びます。
<▷:	カーソルを左右に移動します。
	選択中の文字を消去します。
CLEAR:	(長押し)3 秒以上長押しすると、全ての文字を消去します。

- 入力できる文字
[A ~ Z, 0 ~ 9, ^ ' () * + , - . / =(空白)]

プリセットした放送局を聴く

- 1 0~9、+10 または CHANNEL +、- で聴きたいプリセット番号を選ぶ。

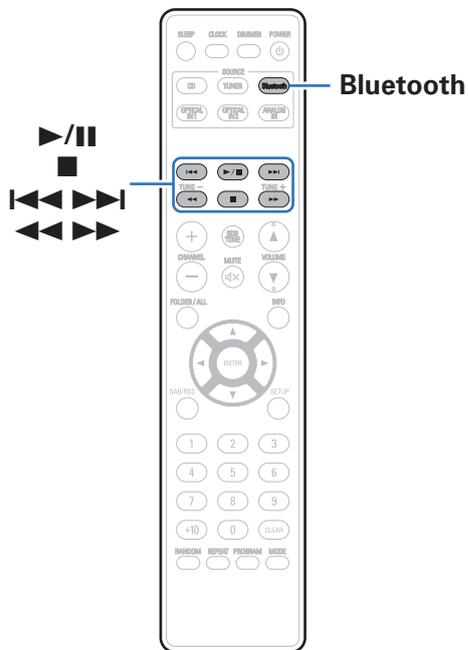
本体でプリセットチャンネルの選択や周波数の切り替えをおこなうための設定

本体のプリセット/選局ボタン(-、+)はプリセットチャンネルの切り替えと周波数の切り替え機能を兼用しています。本機の設定を“PRESET MODE”または“TUNING MODE”に設定することでボタンの機能を切り替えられます。あらかじめ次の手順でお好みの設定にしてください。

- 1 SETUP を押す。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“TUNER SETUP”を選び、ENTER を押す。
- 3 $\Delta\nabla$ を押して“MODE SELECT”を選び、ENTER を押す。
- 4 $\Delta\nabla$ を押して“PRESET MODE”または“TUNING MODE”を選び、ENTER を押す。

PRESET MODE:	本体のプリセット/選局ボタン(-、+)を押すと、プリセットチャンネルを切り替えます。 <ul style="list-style-type: none">• リモコンの CHANNEL - および CHANNEL + と同じ動作です。
TUNING MODE:	本体のプリセット/選局ボタン(-、+)を押すと、受信周波数を切り替えます。 <ul style="list-style-type: none">• リモコンの TUNE - および TUNE + と同じ動作です。

Bluetooth機器の音楽を聴く



スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器と本機をペアリングして接続すると、Bluetooth 機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。
約 10m の範囲内で通信できます。

ご注意

- Bluetooth 機器側の音楽を再生するには、Bluetooth 機器側が A2DP プロファイルをサポートしている必要があります。

Bluetooth 機器の音楽を聴く

Bluetooth 機器の音楽を本機で楽しむときは、あらかじめご使用になる Bluetooth 機器と本機をペアリングしてください。一度ペアリングすれば、再度ペアリングする必要はありません。

1 Bluetooth を押して、入力ソースを“Bluetooth”に切り替える。

はじめてご使用になる場合は、自動的にペアリングモードになり、本機のディスプレイに“Pairing”を表示します。

2 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。

3 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

ペアリングが完了すると、本機のディスプレイに機器名を表示します。

- 本機のディスプレイに“Pairing”が表示されている間に、Bluetooth 機器の接続操作をおこなってください。また、Bluetooth 機器の接続操作は、本機に近い距離(1m程度)でおこなってください。

4 Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。

- 本機のリモコンでも Bluetooth 機器を操作できます。
- 次回以降入力ソースを“Bluetooth”に切り替えた場合、本機は自動的に最後に接続していた Bluetooth 機器に接続します。



- Bluetooth 機器の画面に“Denon RCD-M41”が表示されないときは、Bluetooth 機器でデバイスの検索をおこなってください。
- Bluetooth 機器側の画面でパスキーを要求された場合は、“0000”を入力してください。
- ディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は“.(ピリオド)”に置き換えて表示します。

ご注意

- 本機のペアリングモードは約 5 分間続きます。ペアリングを完了する前に本機のペアリングモードが解除された場合は、もう一度手順 1 からおこなってください。
- 本機はパスキーが“0000”以外の Bluetooth 機器とペアリングすることはできません。

操作ボタン	機能
▶/	再生/一時停止
■	停止
⏮▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
◀▶▶	(長押し)早戻し/早送り

ご注意

- 本機のリモコンで操作するには、Bluetooth 機器側が AVRCP プロファイルに対応している必要があります。
- すべての Bluetooth 機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- Bluetooth 機器によっては、本機は Bluetooth 機器側で設定している音量と連動して音声を出力します。

2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする

Bluetooth 機器と本機をペアリングします。

- 1 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。
- 2 リモコンの Bluetooth を 3 秒以上長押しする。
本機がペアリングモードになります。
- 3 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。
ペアリングが完了すると、本機のディスプレイに機器名を表示します。



- 本機は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の Bluetooth 機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- Bluetooth 機器側の画面でパスキーを要求された場合は、“0000”を入力してください。

Bluetooth 機器から本機に再接続する

ペアリングが済んでいれば、本体の操作をせずに接続することができます。

再生する Bluetooth 機器を切り替える場合にもこの操作をおこなってください。

- 1 現在接続している Bluetooth 機器がある場合、その機器の Bluetooth 設定をオフして接続を切断する。
- 2 接続したい Bluetooth 機器の Bluetooth 設定をオンにする。
- 3 お使いの Bluetooth 機器の Bluetooth 機器リストから本機を選択する。
- 4 Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。



- 本機の電源と Bluetooth 機能がオンのとき、Bluetooth 機器の接続操作をおこなうと、自動的に入力ソースを“Bluetooth”に切り替えます。
- Bluetooth スタンバイ時(電源表示:赤色)に Bluetooth 機器の接続操作をおこなうと、本機の電源が自動的にオンになります。

Bluetooth 機能を停止して高音質な再生をおこなう

Bluetooth 機能を停止することにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑え、高音質な再生ができます。

- 1 Bluetooth を 8 秒以上長押しする。
ディスプレイに“Bluetooth is OFF”を表示して、本機の Bluetooth 機能をオフにします。



- 本機の Bluetooth 機能がオフのときに Bluetooth を押すと、入力ソースを“Bluetooth”に切り替え、Bluetooth 機能がオンになります。
- 本機の Bluetooth 機能をオフにすると、ペアリング済みの Bluetooth 機器から本機に接続操作をしても、本機の入力ソースを“Bluetooth”に切り替えたり電源をオンにしたりできなくなります。

OPTICAL IN1
OPTICAL IN2



ANALOG IN

デジタル入力で聴く

- 1 再生の準備をする。
正しく接続されていることを確認して、本機の電源を入れてください。「デジタル機器を接続する」(P.21 ページ)
- 2 OPTICAL IN1 または OPTICAL IN2 を押して、入力ソースを“OPTICAL IN 1”または“OPTICAL IN 2”に切り替える。
- 3 本機に接続した機器を再生する。

ご注意

- ドルビーデジタル、DTS などリニア PCM 以外の信号は入力しないでください。雑音が発生し、スピーカーが破損する恐れがあります。
- 本機が対応していないフォーマットの音声信号を入力したり、サンプリング周波数を検出できない場合は、“SIGNAL UNLOCK”を表示します。

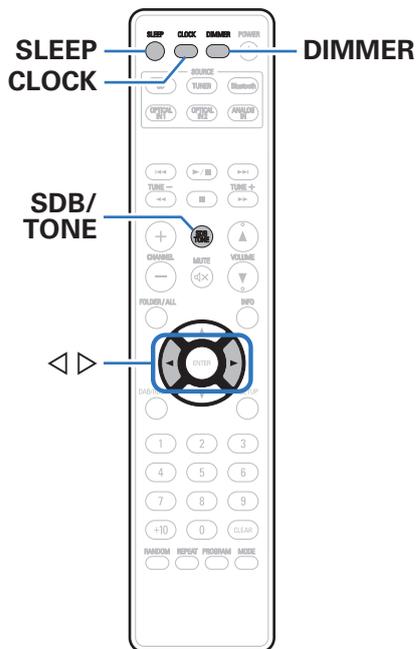
再生できる音声信号の仕様

「デジタル入力」(P.66 ページ)をご覧ください。

アナログ入力で聴く

- 1 再生の準備をする。**
正しく接続されていることを確認して、本機の電源を入れてください。
- 2 ANALOG IN を押して、入力ソースを“ANALOG IN”に切り替える。**
- 3 本機に接続した機器を再生する。**

便利な機能



音質を調節する	43
スリープタイマーを設定する	44
現在の時刻を確認する	44
ディスプレイの明るさを切り替える	45

音質を調節する

1 SDB/TONE を押して、調節する項目を選ぶ。

2 ◀▶ を押して、“SDB”、“BASS”、“TREBLE”、“BALANCE”、“S.DIRECT”を調節する。

□ SDB(Super Dynamic Bass)

ON:	音量に応じて、低音域を強調します(最大+8dB)。
-----	---------------------------

OFF (お買い上げ時の設定):	SDB(Super Dynamic Bass)機能を使用しません。
---------------------	-----------------------------------

□ BASS

低音を調節します。

-10dB~+10dB(お買い上げ時の設定:0dB)

□ TREBLE

高音を調節します。

-10dB~+10dB(お買い上げ時の設定:0dB)

□ BALANCE

◀▶ を押して、左右の音量バランスを調整します。

□ S.DIRECT(Source Direct)

ON:	より原音に近い再生をおこないます。
-----	-------------------

OFF (お買い上げ時の設定):	S.DIRECT(Source Direct)機能を使用しません。
---------------------	-----------------------------------

スリープタイマーを設定する

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながらおやすみになるときに便利です。

1 再生中に SLEEP を押して、設定時間を選ぶ。

- ディスプレイの“SLEEP”表示が点灯します。
- 10分～90分の範囲で、10分間隔で設定できます。

■ スリープタイマーを解除する

SLEEP を押して“SLEEP OFF”を選ぶ。
ディスプレイの“SLEEP”表示が消灯します。



- 本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。
- スリープタイマーを設定した状態で SLEEP を押すと、スリープタイマーが動作するまでの残り時間を表示します。

現在の時刻を確認する

あらかじめメニューの“CLOCK SETUP”で現在時刻の設定をおこなってください。(☞48ページ)

■ 電源オンのときに現在の時刻を確認する

- CLOCK を押す。
- もう一度 CLOCK を押すと通常が表示に戻ります。

■ 電源がスタンバイ状態のときに現在の時刻を確認する

- CLOCK を押す。
- 現在の時刻を約 10 秒間表示します。



- メニューの“CLOCK MODE”の設定が“ON”のときは、スタンバイ時でも常に現在の時刻を表示します。(☞51ページ)

ディスプレイの明るさを切り替える

ディスプレイの明るさを 4 段階に切り替えることができます。

1 DIMMER を押す。

- ボタンを押すたびに、ディスプレイの明るさが切り替わります。



- ディ스플레이が消灯しているときにボタン操作をおこなうと、輝度を落として一時的に情報を表示します。
- お買い上げ時のディスプレイの明るさは、最も明るい設定です。

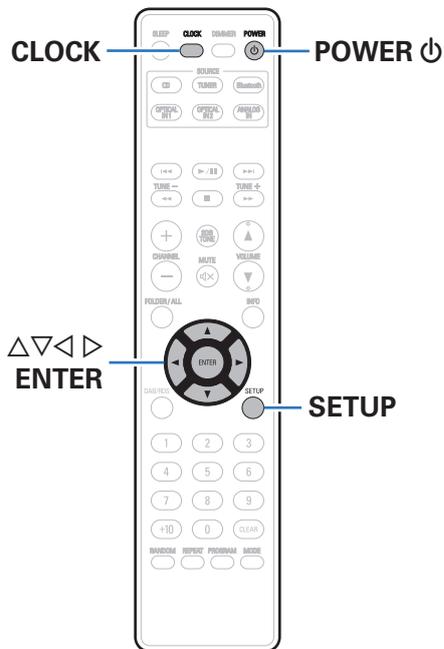
設定のしかた

メニュー一覧

メニューの操作をおこなうときは、参照ページをご覧ください。

本機はお買い上げ時の設定をおすすめの設定にしております。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	説明	関連ページ
CLOCK SETUP	現在の時刻を設定します。	48
ALARM SETUP	アラーム再生を設定します。設定した時刻に、設定した入力ソースの音声を再生できます。	48
ALARM ON/OFF	アラーム再生のオン/オフを設定します。	49
H/P AMP GAIN	ヘッドホンアンプのゲインを設定します。接続するヘッドホンのインピーダンスに合わせて設定してください。	50
SPK OPTIMISE	当社製スピーカー、SC-M41 (別売り)との組み合わせに最適な周波数特性に設定できます。	50
AUTO STANDBY	音声の入力がない状態で本機を約 15 分間操作しないとき、自動的にスタンバイになるように設定します。	50
CD AUTO PLAY	ディスク挿入時に自動再生をおこなうかを設定します。	51
TUNER SETUP	“TUNER SETUP”を選ぶと以下 2 つのメニューを表示します。	-
FM AUTO PRESET	FM 放送局を自動的にプリセットします。	33
MODE SELECT	本体のプリセット/選局ボタン(-, +)を使ってプリセット登録したチャンネルを切り替えるか、受信周波数を 1 ステップずつ切り替えるかを設定します。	35
CLOCK MODE	時刻を常に表示するかどうかを設定します。	51



メニューの操作のしかた

- 1 **SETUP** を押す。
ディスプレイに設定メニューを表示します。
- 2 **△▽** を押して設定または操作したいメニューを選び、**ENTER** を押す。
- 3 **△▽◀▶** を押して、お好みの設定に変更する。
- 4 **ENTER** を押して、設定を確定する。
 - 前の項目に戻るときは、**◀** を押してください。
 - メニューを終了するときには、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。
メニュー表示が消灯します。

CLOCK SETUP

現在の時刻を設定します。

- 1 **△▽** を押して、“時” を設定する。
- 2 **ENTER** を押す。
“分” 表示が点滅します。
- 3 **△▽** を押して、“分” を設定する。
- 4 **ENTER** を押す。
現在時刻を確定し、メニュー表示を終了します。

☐ 電源オンのときに現在の時刻を確認する

CLOCK を押す。
もう一度 CLOCK を押すと通常の表示に戻ります。

☐ 電源がスタンバイ状態のときに現在の時刻を確認する

CLOCK を押す。
現在の時刻を約 10 秒間表示します。



- 電源がスタンバイ状態のときは、時刻設定ができません。電源を入れてから設定してください。

ALARM SETUP

設定した時刻に、設定した入力ソースの音声を再生できます。毎日同じ時刻に再生することもできます。

1 **△▽◀▶** を押してお好みの設定を選び、**ENTER** を押して確定する。

① MODE SELECT

△▽ でアラームモードを選び、ENTER を押す。

ONCE ALARM: 設定した時刻に 1 度だけアラーム再生をおこないます。

EVERYDAY ALARM: 設定した時刻に毎日アラーム再生をおこないます。

② SOURCE SELECT

△▽ でアラーム再生をするソースを選び、ENTER を押す。

DISC / TUNER / ANALOG IN / OPTICAL IN 1 / OPTICAL IN 2 / Bluetooth



- “SOURCE SELECT” で “TUNER” を選んだ場合は、続いてプリセット番号を選びます。
- 選択したプリセット番号に名前が登録していない場合は、プリセット番号を表示したあとに周波数を表示します。
- “Bluetooth” を選択すると、前回接続した機器に接続を試みます。
- お使いの Bluetooth 機器によっては、アラーム再生しない場合があります。

③ VOLUME SELECT

△▽で音量を調節し、ENTERを押す。

④ ON TIME

△▽でアラーム再生開始時刻の“時”を設定し、ENTERを押す。

△▽でアラーム再生開始時刻の“分”を設定し、ENTERを押す。

⑤ OFF TIME

△▽でアラーム再生終了時刻の“時”を設定し、ENTERを押す。

△▽でアラーム再生終了時刻の“分”を設定し、ENTERを押す。

⑥ ALARM ON/OFF

◀▶でアラーム再生の“ON”または“OFF”を選び、ENTERを押す。



- ①表示が点灯し、アラーム設定が確定します。
- 3秒間、アラーム設定の内容を表示します。

2 POWER を押して、電源をスタンバイにする。

アラームスタンバイモードになり、電源表示がオレンジ色に点灯します。

ALARM ON/OFF

アラーム再生のオン/オフを設定します。

1 △▽で“ONCE”または“EVERYDAY”を選ぶ。

2 ◀▶でアラーム再生の“ON”または“OFF”を選び、ENTERを押す。

アラーム設定の内容を表示します。

- “OFF”にすると、アラーム再生が無効になりますが、アラーム再生の設定内容はそのまま残ります。

H/P AMP GAIN

ヘッドホンアンプのゲインを設定します。接続するヘッドホンのインピーダンスに合わせて設定してください。ヘッドホンのインピーダンスが低い場合は“LOW”側に、高い場合は“HIGH”側に設定することをおすすめします。

HIGH:	ヘッドホンアンプのゲインを“HIGH”に設定します。ゲイン設定を“MIDDLE”にしても、音量が足りない場合に設定してください。
MIDDLE (お買い上げ時の設定):	ヘッドホンアンプのゲインを“MIDDLE”に設定します。
LOW:	ヘッドホンアンプのゲインを“LOW”に設定します。ゲイン設定が“MIDDLE”だと、音量が大きすぎる場合に設定します。



- ゲイン設定に合わせて、ヘッドホンの音量が変動します。音声を聴きながら設定を変更する場合は、音量を下げてからおこなってください。

SPK OPTIMISE

当社製スピーカー(SC-M41)の特性に合わせた最適化フィルター機能を設定できます。

ON (お買い上げ時の設定):	当社製スピーカー(SC-M41、別売)に最適な特性になるよう、音声処理をおこないます。
OFF:	音声処理をおこないません。

AUTO STANDBY

入力信号がなく、操作しない状態が約 15 分続いた場合に、自動的にスタンバイ状態になります。

ON:	約 15 分後にスタンバイ状態にします。
OFF (お買い上げ時の設定):	自動的にスタンバイ状態にしません。



- 入力ソースが“ANALOG IN”の場合は、本機を約 8 時間操作しない状態が続くと本機を自動的にスタンバイ状態にします。
- 本機のチューナーを使用する場合、オートスタンバイ機能ははたらきません。

CD AUTO PLAY

CD トレイを閉じたときにディスクを検知し、自動的に入力ソースを“DISC”に切り替えて再生をはじめることができます。

ON
(お買い上げ時の設定): 自動再生します。

OFF: 自動再生しません。

CLOCK MODE

時刻を常に表示できます。

ON: 時刻を表示します。POWER \odot ボタンを押すと時刻表示と通常表示を切り替えます。

OFF
(お買い上げ時の設定): 時刻を表示しません。

ご注意

- “CLOCK MODE”の設定が“ON”のときは、スタンバイ時でも電源オン時と同等の電力を消費します。

困ったときは

■ 目次

上手な使いかた/こんなときの解決方法

スタンバイ状態から 1 回の操作で再生したい	53
Bluetooth 機器で本機の電源をオンにしたい	53
高音質な再生を楽しみたい	53
好みの音質に調節したい	53
原音に忠実な再生をしたい	53
時刻を常に表示したい	53
ヘッドホンの音量をスピーカーの音量と合わせたい	53

故障かな?と思ったら

電源が入らない/電源が切れる	54
LED が点滅している	55
リモコンで操作ができない	56
本機のディスプレイが表示されない	56
音がまったく出ない	57
希望する音が出ない	58
デジタル機器の音声を再生できない(Optical)	58
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	59
ディスクが再生できない	60
Bluetooth が再生できない	61

上手な使いかた/こんなときの解決方法

スタンバイ状態から 1 回の操作で再生したい

- 入力ソース選択ボタン、▶/■ ボタン、▲ ボタンを押すと、電源がオンになると同時に各動作をおこないます。

Bluetooth 機器で本機の電源をオンにしたい

- 本機を Bluetooth 機器と一度ペアリングしている場合は、Bluetooth 機器の操作で本機の電源をオンにできます。Bluetooth 機器のデバイス一覧から“Denon RCD-M41”を選択すると、本機の電源がオンになります。

高音質な再生を楽しみたい

- Bluetooth 機能を停止することにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑え、高音質な再生ができます。Bluetooth ボタンを約 8 秒間長押ししてください。(☞ 39 ページ)

好みの音質に調節したい

- SDB/TONE ボタンを押して、“SDB”、“BASS”、“TREBLE”および“BALANCE”を設定してください。(☞ 43 ページ)

原音に忠実な再生をしたい

- SDB/TONE ボタンを押して、“S.DIRECT”の設定を“ON”にしてください。(☞ 43 ページ)

時刻を常に表示したい

- “CLOCK MODE”の設定を“ON”にすると、時刻を常に表示できます。(☞ 51 ページ)

ヘッドホンの音量をスピーカーの音量と合わせたい

- “H/P AMP GAIN”の設定を変えることで、スピーカーの音量を変えずにヘッドホンの音量のみを調節できます。(☞ 50 ページ)

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、初めに次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。

なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様ご相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

■ 電源が入らない/電源が切れる

症状	原因 / 対策	関連ページ
電源が入らない。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	24
	• スタンバイモードになっています。本体の ⏻ ボタンを押すかリモコンの POWER ⏻ ボタンを押してください。	26
電源が自動的に切れる。	• スリープタイマーが設定されています。再度電源をオンにしてください。	44
	• 本機がオートスタンバイモードに設定されています。オートスタンバイモードでは何も操作しない状態が 15 分以上続いたとき、自動的にスタンバイ状態になります。オートスタンバイ機能を無効にするには、メニューの“AUTO STANDBY”を“OFF”に設定してください。	50

■ LED が点滅している

症状	原因 / 対策	関連ページ
赤色に点滅している。(0.25秒間隔で点滅)	<ul style="list-style-type: none"> 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。 	—
赤色に点滅している。(0.5秒間隔で点滅)	<ul style="list-style-type: none"> 機器内部の温度上昇により、保護回路が動作しました。一度電源をオフにして、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 	Z1
	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーケーブルの芯線どうしの接触や、芯線が端子から外れて本機のリアパネルに接触したために、保護回路が動作しました。電源コードを抜き、芯線をしっかりとより直してから接続し直してください。 	Z1

■ リモコンで操作ができない

症状	原因 / 対策	関連ページ
リモコンで操作ができない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	Z
	• リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。	Z
	• 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。	—
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。	Z
	• 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。	—
• 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。	—	

■ 本機のディスプレイが表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ディスプレイの表示が消える。	• リモコンの DIMMER ボタンを押して消灯以外の設定にしてください。	45

■ 音がまったく出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
スピーカーから音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	18
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。	19
	• スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子の締めつけがゆるんでいないか確認してください。	19
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	27
	• 音量を適切な大きさに調節してください。	27
	• ミューティング(消音)モードを解除してください。	27
	• 外部機器から本機に音声を入力している場合、適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	40
	• 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定が“オフ”になっていることがあります。	—
	• ドルビーデジタル、DTS などリニア PCM 以外の信号は入力しないでください。雑音が発生し、スピーカーが破損する恐れがあります。	40
	• 本体のヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子から音が出なくなります。	11
• Bluetooth 接続で再生する場合は、本機と Bluetooth 機器をペアリングしてください。	37	

■ 希望する音が出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
左右の音量バランスが悪い。	• リモコンの SDB/TONE ボタンを押して “BALANCE” の調節をおこなってください。	43
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。	20
	• サブウーハーの電源を入れてください。	—
“SDB (Super Dynamic Bass)”、“BASS”および “TREBLE”の設定が反映されない。	• “SDB (Super Dynamic Bass)”、“BASS”および “TREBLE”の設定は、サブウーハー出力には反映されません。	43
	• メニューの “S.DIRECT”を “OFF”に設定してください。	43
ヘッドホンの音量が小さい。	• インピーダンスの高いヘッドホンや感度の低いヘッドホンを使うときは、“H/P AMP GAIN”を “MIDDLE”または “HIGH”に切り替えてください。	50

■ デジタル機器の音声を再生できない(Optical)

症状	原因 / 対策	関連ページ
“SIGNAL UNLOCK”と表示される。	• デジタル音声信号を正しく検出できない場合は、“SIGNAL UNLOCK”を表示します。	40
	• 本機が対応していないフォーマットの音声信号を入力した場合は、“SIGNAL UNLOCK”を表示します。ご使用のデジタル機器の音声出力信号フォーマットを確認してください。	40

■ 音が途切れたり、ノイズが入ったりする

症状	原因 / 対策	関連ページ
iPhone で通話すると、本機の音声出力にノイズが入る。	• iPhone を本機から 20cm 以上離して通話してください。	—
FM/AM 放送で雑音が多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。	22
	• 屋外アンテナを使用してください。	22
	• アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	22
CD-R/CD-RW を再生中に音が途切れる。	• 記録状態が悪い、またはディスク自体の品質が悪いことが原因です。正しく記録したディスクをご使用ください。	—

■ ディスクが再生できない

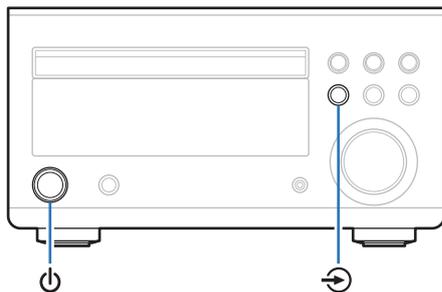
症状	原因 / 対策	関連ページ
▶/■ ボタンを押しても再生しない。ディスクの特定の場所が正しく再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ディスクが汚れたり、傷が付いたりしています。ディスクの汚れを拭き取るか、他のディスクと入れ替えてください。 	67
CD-R/CD-RW が再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ファイナライズをしていないディスクは再生できません。ファイナライズしたディスクをご使用ください。 	67
	<ul style="list-style-type: none"> 記録状態が悪い、またはディスク自体の品質が悪いことが原因です。正しく記録したディスクをご使用ください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 本機のデータ CD 再生機能は MP3、WMA ファイルのみに対応しています。 	65
“Unsupported”と表示される。	<ul style="list-style-type: none"> 再生できないディスクを入れた場合には、“Unsupported”を表示します。 	67
“NO DISC”と表示される。	<ul style="list-style-type: none"> ディスクを裏返しに入れた場合またはディスクが入っていない場合には、“NO DISC”を表示します。 	67

■ Bluetooth が再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
本機に Bluetooth 機器が接続できない。	• Bluetooth 機器の Bluetooth 機能が有効になっていません。Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください、Bluetooth 機能を有効にしてください。	—
	• 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。	—
	• Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない場合、本機と接続できません。	—
	• ご使用の Bluetooth 機器の電源を入れ直してから、お試しください。	—
	• Bluetooth 機能がオフです。Bluetooth ボタンを押して、Bluetooth 機能をオンにしてから再度接続してください。	39
音が途切れる。	• 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。	—
	• 本機と Bluetooth 機器の間にある障害物を取り除いてください。	—
	• 電波干渉がおきないように、電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から本機を離してください。	—
	• Bluetooth の再接続操作をおこなってください。	—

お買い上げ時の設定に戻す

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
各種設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。



- 1 電源ボタンを押して、本機をスタンバイ状態にする。
- 2 設定ボタンを押しながら、電源ボタンを約3秒間押す。
“INITIALIZE”を表示します。



- “INITIALIZE”が表示されない場合は、もう一度おこなってください。

保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

- 保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料・・・故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代・・・修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料・・・製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけず修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただきますこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるためのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

データ CD の再生について

■ データ CD のフォーマットについて

本機では、次のフォーマットで作成した CD-R または CD-RW を再生できます。

ライティングソフトのフォーマット

ISO9660 レベル 1

他のフォーマットで記録している場合は、正しく再生できないことがあります。

再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

フォルダ数とファイル数の合計: 512 個

最大フォルダ数: 256 個

ファイル形式

MPEG-1 Audio Layer-3

WMA (Windows Media Audio)

タグ情報

ID3 タグ (Ver. 1.x と 2.x)

META タグ (タイトル、アーティストおよびアルバムに対応)

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
MP3	32/44.1/48kHz	32~320kbps	.mp3
WMA	32/44.1/48kHz	64~192kbps	.wma



- ファイルには必ず拡張子 “.MP3” “.WMA” を付けてください。これら以外の拡張子を付けた場合や拡張子を付けなかったファイルは再生できません。
- Mac の OS X で作成したファイルの中で、ファイル名の先頭に “.” が付いているファイルは、音楽データでないため再生できません。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

デジタル入力

■ 再生できる音声信号の仕様

□ Optical

	サンプリング周波数	ビット長
リニア PCM (2 チャンネル)	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	16/24 ビット

Bluetooth 機器の再生について

本機は、次の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、モノラルやステレオの音声データを高品質にストリーミング配信することができます。
- AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、本機から Bluetooth 機器を操作することができます。

■ Bluetooth 通信について

本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、次の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。

- 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスを発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

ディスクについて

■ 本機で使用できるディスク

① 音楽用 CD

本機で使用できる CD は、右のマークが付いているものです。



② CD-R/CD-RW

ご注意

- ハート型や八角形など特殊形状の CD は再生できません。故障の原因になりますので、使用しないでください。
- ご使用になるディスクや記録状態により、再生できない場合があります。
- ファイナライズしていないディスクは再生できません。
- 本機をたばこなどの煙が充満している場所に長時間置くと、光学式ピックアップの表面が汚れ、正しい信号の読み取りができなくなることがあります。



■ ディスクの入れかた

- レーベル面を上にして入れてください。
- ディスクトレイが完全に開いた状態でディスクを入れてください。
- 12cm ディスクは外周トレイガイドに合わせ、8cm ディスクは内周トレイガイドに合わせて、水平に置いてください。
- 8cm ディスクは、アダプターを使用せずに内周トレイガイドに合わせて置いてください。



- 再生できないディスクを入れた場合には、“Unsupported” を表示します。
- ディスクを裏返しに入れた場合またはディスクが入っていない場合には、“NO DISC” を表示します。

ご注意

- 電源を切っているときに、ディスクトレイを手で押し込まないでください。故障の原因になります。
- ディスクトレイに異物を入れないでください。故障の原因になります。
- 本機をたばこなどの煙が充満している場所に長時間置くと、光学式ピックアップの表面が汚れ、正しい信号の読み取りができなくなることがあります。

■ ディスクを入れる際のご注意

- ディスクは 1 枚だけ入れてください。2 枚以上重ねて入れると故障の原因になり、ディスクを傷つけることにもなります。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。
- セロハンテープやレンタル CD のラベルなどのノリがはみ出したり、はがした跡にノリが残っているディスクは使用しないでください。そのまま使用すると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因になることがあります。

■ 取り扱いについてのご注意

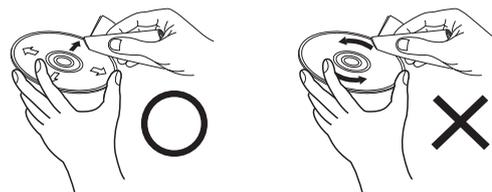
- 指紋・油・ゴミなどを付けないでください。
- ディスクに傷を付けないよう、特にケースからの出し入れにはご注意ください。
- 曲げたり、熱を加えたりしないでください。
- 中心の穴を大きくしないでください。
- レーベル面(印刷面)にボールペンや鉛筆などで文字を書いたり、ラベルなどを貼り付けたりしないでください。
- 屋外など寒いところから急に暖かいところへ移すと、ディスクに水滴が付くことがあります。ヘアードライヤーなどで乾かさないうでください。

■ 保存についてのご注意

- ご使用後は、必ずディスクを取り出してください。
- ほこり・傷・変形などを避けるため、必ずケースに入れてください。
- 次のような場所に置かないでください。
 1. 直射日光が長時間当たるところ
 2. 湿気・ほこりなどが多いところ
 3. 暖房器具などの熱が当たるところ

■ ディスクのお手入れのしかた

- ディスクに指紋や汚れが付いたときは、汚れを拭き取ってから使用してください。音質が低下したり、音が途切れたりすることがあります。
- 拭き取りには、市販のディスククリーニングセットまたはやわらかい布などを使用してください。



内周から外周方向へ軽くふく。

円周に沿ってはふかない。

ご注意

- レコードスプレー・帯電防止剤や、ベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品は使用しないでください。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

目次

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録

用語の解説

■ 音声

MP3 (MPEG Audio Layer-3)

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

WMA (Windows Media Audio)

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media® Player を使用してエンコード(符号化)することができます。WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。

サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω (オーム) という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ビットレート(Bit rate)

記録された映像/音声データを 1 秒あたりに何ビットのデータに処理したかをあらわします。この数値が大きいほど音質は向上しますが、ファイルサイズは大きくなります。

■ その他

ファイナライズ

録音された CD-R/CD-RW を再生対応機で再生できるように処理することです。

ペアリング

ペアリング(登録)とは、Bluetooth 機器と本機を接続するために必要な操作です。ペアリングすると互いの機器が認証し合うので、混線することなく接続できます。

はじめて Bluetooth 機器を接続する場合は、最初に本機と本機に接続する Bluetooth 機器をペアリングする必要があります。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

登録商標について



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、D&M Holdings Inc.はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者に帰属します。

主な仕様

■ オーディオ部

• CD プレーヤー部

再生周波数特性:	2Hz~20kHz
ワウ・フラッター:	測定限界(±0.001% W.peak)以下
サンプリング周波数:	44.1kHz

• オーディオ部

定格出力:	2チャンネル 30W + 30W(負荷 6Ω、1kHz、T.H.D. 10%、JEITA)
-------	--

■ チューナー部

	[FM]	[AM]
受信周波数帯域:	76.0MHz~95.0MHz	522kHz~1629kHz
実用感度:	1.2μV/75Ω	20μV
FM ステレオ分離度:	35dB(1kHz)	
FM S/N 比:	モノラル:65dB ステレオ:60dB	
FM 全高調波歪率(1kHz):	モノラル:0.2% ステレオ:0.5%	

■ Bluetooth 部

通信システム:	Bluetooth バージョン 4.0
送信出力	Power Class 1
最大通信範囲:	見通し距離 約 10m *
周波数帯域:	2.4GHz 帯域
変調方式:	FHSS (Frequency-Hopping Spread Spectrum)
対応プロファイル:	A2DP(Advanced Audio Distribution Profile) 1.3 AVRCP(Audio Video Remote Control Profile) 1.5
対応コーデック:	SBC, AAC
伝送範囲(A2DP):	20Hz~20,000Hz

* 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

■ 時計/アラーム/スリープ

時計方式:	クリスタル発振子(月差 1 ~ 2 分)
アラーム:	ワンスアラーム/エブリデイアラーム:各 1 系統
スリープ:	スリープタイマー:最大 90 分

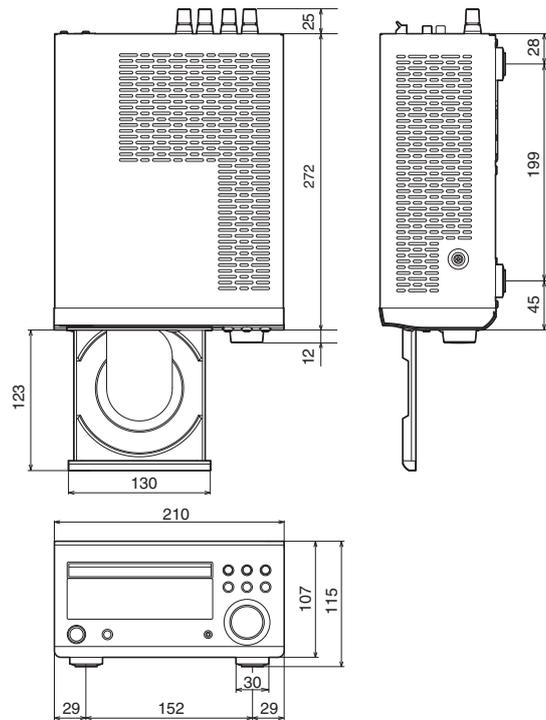
■ 総合

電源:	AC100V 50/60Hz
消費電力:	70W
クロックモード時の消費電力:	14W
スタンバイ時の消費電力:	0.3W

- JEITA:(社)電子情報技術産業協会(略称:JEITA)が制定した規格です。
- 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

■ 寸法

単位:mm



■ 質量:4.2kg

目次

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録

索引

🔍 B

Bluetooth 機器 36

🔍 C

CD 28

🔍 あ

アラーム 48

🔍 お

オートスタンバイ 50

お買い上げ時の設定に戻す 62

音質を調節する 43

音量 27

🔍 す

スリープタイマー 44

🔍 て

ディスプレイの明るさ 45

データ CD 30

🔍 ふ

フロントパネル 9

🔍 み

ミュートリング 27

🔍 め

メニュー一覧 46

🔍 り

リアパネル 13

リモコン 15







当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

お客様相談センター

 0570 (666) 112

FAX : 044 (330) 1367

- 受付時間 9 : 30 ~ 17 : 30
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
 - 上記番号がご利用いただけない場合  050 (3388) 6801
〒 210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1 D&Mビル
 - お問い合わせをいただく前に、ホームページのFAQをご確認ください。
<http://denon.jp/jp/html/faq.html>
 - メールでお問い合わせをいただくこともできます。
<http://denon.jp/jp/html/contact.html>
- * 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

修理相談窓口

 0570 (666) 811

- 受付時間 9 : 30 ~ 12 : 00、13 : 00 ~ 17 : 30
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
 - 上記番号がご利用いただけない場合  0466 (86) 9520
 - 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページ
でもご確認いただけます。
<http://denon.jp/jp/html/service.html>
 - 代表修理窓口
首都圏サービスセンター
〒 252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 2010-16
FAX : 0466 (86) 9522
- * ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。

DENON®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

〒 210-8569

神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1 D&Mビル

Printed in Vietnam 5411 11535 00AD

Copyright ©2017 D&M Holdings Inc. All Rights Reserved.